

普及活動現地情報 「農業現場では、今」

令和2年10月号



【伊都振興局】重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】
～「紀州てまり」果実の試食検討会～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



I 海草振興局	1 - 3
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～援農に係る新型コロナウイルス感染症対策チラシを作成～	
2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～下津町農業士会「会員の優良園地巡回研修会」を開催～	
3. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～下津町農業士会が下津第2中学校で「下津みかん出前授業」を開催～	
4. 小学生を対象に稲刈り体験学習を実施	
II 那賀振興局	4 - 7
1. 管内の加工グループがイチジク加工品を試作！	
2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催！	
3. スマート農業実践塾 in 那賀（ドローン）を開催	
4. 那賀地方農業士会女性部会カトレア会が研修会を開催！	
III 伊都振興局	8 - 9
1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～「紀州てまり」果実の試食検討会～	
2. 小学校で柿の渋抜き体験を実施	
IV 有田振興局	10
1. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催！	
V 日高振興局	11 - 12
1. みなべ町農業士会が耕作放棄地対策研修を実施	
2. 由良町内の子供たちに「ゆら早生」を贈呈	
VI 西牟婁振興局	13 - 16
1. まずは体験！～スマート農業実践塾（果樹コース）を開催～	
2. 若手農業者が相互に園地等の巡回研修を実施	
3. ホオズキ生産者が新しい栽培法に挑戦！	
4. 令和元年度 川添緑茶研究会通常総会を開催	
VII 東牟婁振興局	17
1. 古座川梅研究会がウメ剪定講習会を開催	
VIII 農林大学校 就農支援センター	18
1. 令和2度技術修得研修（第2班）開講	
IX 経営支援課（農業革新支援センター）	19
1. 「わかやまスマート農業実践塾（施設園芸コース）」第2回を開催	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～援農に係る新型コロナウイルス感染症対策チラシを作成～

海南市下津町内では、みかんの収穫時期に多くの農業者が援農者を臨時的に雇用している。今年度は受入農家、援農者ともに新型コロナウイルスのまん延防止対策の徹底が重要となることから、海南・下津農業の将来を考えるワーキングチーム（事務局：農業水産振興課）で、援農に係る新型コロナウイルス感染症対策の注意点等をまとめたチラシを作成した。チラシはA4版で、①援農者受入前の注意点（対象：受入農家）、②農作業時の注意点（対象：受入農家、援農者）、③宿泊施設や生活上での注意点（対象：援農者）について詳細に記載し、JA広報誌へ掲載するとともに、援農者を雇用している農業者や援農者に配布し対策の徹底を呼びかけた。農業者からは「新型コロナ対策は地域全体で取り組むことが重要なので、チラシで広く周知してくれてありがたい」、「チラシの内容をしっかりと守って、感染防止対策に努めたい」といった意見が聞かれた。

今回作成したチラシは、JAながみねしもつ営農生活センターの窓口を設置しているの、下津町内の農業者を中心に幅広く活用していただければと考えている。

～援農者受入農家、援農者のみなさまへ～
新型コロナウイルス感染症対策について

柑橘類の収穫時期を迎え県外等から援農者の受入を予定されている農業者の皆さんも多いと思いますが、今年度は受入農家、援農者ともに新型コロナウイルスのまん延防止対策の徹底が重要になります。
そこで、下記のとおり注意点をまとめましたので、参考にしていただき感染防止に努めましょう。

○援農者受入前の注意点（対象：受入農家）

①援農者に対して来県する2週間前からは複数人での飲食を控え、可能な限り3密を避けた生活を行うなど感染防止対策の徹底をお願いします。
②来県前の援農者に発熱などの症状がある場合は、来県を控えてもらうとともにクリニックを受診するようお願いします。

○農作業時の注意点（対象：受入農家、援農者）

①体温チェックを毎日行い、記録しましょう。（受入農家、援農者）
②発熱などの症状がある場合は業務に従事させず、クリニックの受診を勧めましょう。
③複数人で作業をする場合はマスクを着用し、人との間隔はできるだけ2mを目安に（最低1m）適切な距離を確保するとともに、屋内では状況に応じて換気しましょう。
④集出荷施設等への入退場時には、手洗い、手指の消毒を行います。
⑤ドアノブ、手すり等人がよく触れるところは、拭き取り清掃を行います。

○宿泊施設や生活上での注意点（対象：援農者）

①宿泊施設内での援農者同士の食事等を避け、3密にならないよう生活しましょう。特に来県後2週間は徹底しましょう。
②宿泊施設内の共有部や手すり等は定期的に拭き取り清掃を行うとともに、外出先から戻った場合は、手洗い、手指の消毒を徹底しましょう。
③スーパー等の商業施設へ行くなど外出する際はマスクの着用を徹底しましょう。
④特に感染が拡大している地域に出かけての会食や接待を伴った飲食は控えましょう。
⑤発熱等の症状がある場合は、必ず速やかにクリニックを受診しましょう。

作成：海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム（2020.10）

チラシ

2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～下津町農業士会「会員の優良園地巡回研修会」を開催～

10月7日、下津町農業士会（会長：榎本友紀氏）では、魅力ある園地へのチャレンジ推進活動として、「会員の優良園地巡回研修会」を海南市下津町内のカンキツ園地で開催した。

研修会には、下津町農業士会員10名が参加した。はじめにJAながみね蔵夢選果場において、選果場職員から今年産極早生の出荷販売状況について説明を受けた後、会員が栽培管理する①園内道整備及び鳥獣害対策園、②ゆら早生完熟栽培園、③園地改造園（造成を伴うフラット化）を巡回した。各園で会員から面積や栽培品種、整備内容等について説明があった。参加者は興味深く園内を視察し、多くの質問や意見が出されるなど関心の高さが伺える大変有意義な研修会となった。

農業水産振興課では、今後も下津みかん産地の維持発展に繋がる取組を積極的に支援していく。



研修会

3. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～下津町農業士会が下津第2中学校で「下津みかん出前授業」を開催～

10月26日、下津町農業士会（会長：榎本友紀氏）は下津みかん産地の将来を担う子供達に下津みかん産地の現状や課題、農業の魅力等を学んでもらうことを目的に、下津第二中学校2年生（38名）を対象に「下津みかん出前授業」を開催した。始めに農業水産振興課の嶋田普及指導員および川村普及指導員から「下津みかん」及び「日本農業遺産（下津蔵出しみかんシステム）」について説明し、続いて農業士会員3名からみかん栽培の魅力や農業を仕事にした理由等について話した後、会員が持参した極早生みかんを試食した。その後、生徒達は7グループに分かれ①みかんの消費拡大、②下津みかんのPR、③農業を仕事にする条件をテーマに議論を行い、最後に意見をまとめグループごとに発表した。発表の中には「インスタ等のSNSを活用して若年層に下津みかんをPR」、「みかんを使った料理レシピの作成配布」、「農業を仕事にするには安定した収入と休暇が必要」等、産地の活性化につながるような意見があり、農業士会員と中学生双方にとって、今回の出前授業は地域の特産である下津みかんについて深く考える大変良い機会となった。

当課では、今後も下津町農業士会が行う下津町内の小中学校での「下津みかん出前授業」を支援していく。



授業



意見発表

4. 小学生を対象に稲刈り体験学習を実施

農業水産振興課では、小学校等を対象に、農業や食べ物への知識や大切さを学んでもらうため、体験学習や出前授業等に取り組んでいる。

10月12日、和歌山市梅原の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校5年生95名を対象に稲刈り体験学習を実施した。

貴志氏から稲刈りの手順や注意点について説明を受けた後、児童たちは稲を刈る役・持つ役・結ぶ役の3人1組のグループに分かれ、刈り取り作業を行った。鎌の使い方や稲の結び方が段々と慣れていき、児童たちは楽しんで作業をしていた。また、刈り取った稲は「はさがけ」を行い、乾燥させる作業も体験した。はさがけ乾燥した稲は、貴志氏が脱穀すりし、白米を小学校の給食で味わう予定となっている。

当課では、今後も小学校を対象とした農業教育の支援を行っていく。



貴志氏から説明を受ける児童



刈り取りの様子

Ⅱ 那賀振興局

1. 管内の加工グループがイチジク加工品を試作！

普及指導計画「イチジク産地の復活プロジェクト」では、今年度、規格外品の加工用途について検討しており、今回、農業水産振興課では管内の加工グループとともにイチジク加工品の試作を行った。

9月8日、桃りゃんせ夢工房（会長：日浦成美氏）ではイチジクドレッシング、ドライイチジク、イチジク茶の試作を行った。

ドレッシングはレモン汁を加えるときれいなピンク色に発色することが分かり、またイチジクが苦手な人でも食べやすいと好評だった。ドライイチジクはオーブン加熱とドライフルーツ用乾燥機の二通りを試作し、試食ではどちらも美味しいとの評価を得たが、商品に仕上げるには温度や時間の検討がさらに必要との意見が出た。

イチジク茶は、イチジクの葉をそのまま乾燥させたものと、蒸してから乾燥させた二種類を試作した。乾燥させただけの物は青臭さが残ったが、蒸したものは甘い香りのするお茶となり、美味しいという意見が大多数だった。

10月11日、岩出市生活研究グループ協議会加工部（会長：福田清子氏）ではイチジクジャム、イチジクのコンポート、イチジクのフリッターの三品を試作した。

ジャムは皮付きのまま調理することで、鮮やかな赤色と独特の食感を残した。コンポートは煮汁とともにゼラチンで固め、イチジクの魅力を余すところなく味わえるゼリーとなった。フリッターはサクッとした衣に、加熱された甘く柔らかいイチジクがよく合い、新たな食べ方提案になるとの意見が出た。

イチジクの加工品については、既に茶の商品化を検討している生産者がいる等、高い関心が寄せられている。当課では、今回得た情報を、地域でイチジクの加工品開発に取り組む生産者に向け提供していく。



イチジク茶 （左）乾燥のみ（右）蒸し+乾燥



ドライイチジク



ジャム



コンポート



フリッター

2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催！

10月13日、那賀地方生活研究グループ連絡協議会（会長：坂口富子氏）では、リーダー研修会を開催した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制約を受ける中、どのような活動ができるかを役員会で協議した結果、防災講座を実施することとなった。

本来であれば多くの会員に参加してもらいたかったが、参加人数を制限し、紀の川市と岩出市の生研グループリーダーのみを対象に人数を制限して研修会を実施し、会員17名と市・県担当者が参加した。

講座は前半、川村普及指導員が日常の中で取り組める防災について、スライドを使って講義を行い、その後、役員が分担して災害時に役立ついくつかの実習を行った。

新聞紙で作るゴミ箱は、普段は小物入れとして、また災害時はビニール袋を併用して非常用トイレとして使えることを学んだ。

また、広告紙を使っての折紙食器は、思いのほか作り方が難しく、会員同士で教えあう姿が見られた。

風呂敷は包む以外にも、カバン、エプロン、三角巾、頭巾など様々な使い方ができ、アイデア次第で防災にも役立つことが分かった。

会員からは、「防災の大切さについて再認識した」、「防災が大切だと思いながら、なかなか行動に移せなかったが、これからはもっと意識したい」、「今回の研修会は講義だけでなく実習があって楽しかった」といった声が聞かれた。

当課では、今後も生活研究グループの活動を支援していく。



折紙食器に挑戦



風呂敷の活用方法について学ぶ

3. スマート農業実践塾 in 那賀（ドローン）を開催

10月20日、かき・もも研究所において、スマート農業実践塾を開催し、管内から農業者7名、関係者11名の計18名が参加した。

講師に（株）未来図の藤戸輝洋氏を招き、ドローンの活用にあたり遵守する法律、使用のメリットなどについての座学の後、現地柑橘栽培圃場において、農薬散布ドローン

【XAIRCRAFT P-20】による農薬散布のデモンストレーション（水を散布）と空撮用ドローンの【DJI PHANTOM 4】による操縦体験講習を行った。

参加者からは登録農薬、散布能力といった面で果樹生産の現場に導入するには、まだまだ課題がある等の意見が聞かれた。

当課は、今後もスマート農業の導入推進を支援していく。



座学の様子



薬剤散布用ドローン



農薬散布の実演



操作実習に用いた空撮用ドローン

4. 那賀地方農業士会女性部会カトレア会が研修会を開催！

10月27日、那賀地方農業士会女性部会カトレア会（会長：小坂博子氏）では、会員の高井恵美氏を講師に迎え、ふくろう作り体験を行った。

最初に高井講師から作り方について説明を受けた後、参加者達は大小二羽のふくろう作りに挑戦した。一羽目は作り方を巡ってわいわい賑やかに、二羽目は手順も分かりスムーズに作業を進めていた。同じ型紙と材料を使いながらも、それぞれ少しずつ異なった表情に仕上がりに、参加者は互いの作品を見比べながら、リースや木の板に載せて完成させた。

今年度、カトレア会では新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年3月に開催予定だった総会を書面議決に変更したため、会員同士久しぶりの交流となった。出席者からは「久しぶりにみんなと会えて嬉しかった」、「来年3月の総会こそは開催したい」といった声が聞かれた。

研修会ではその他、川村普及指導員から農業者向け補助事業や経営サポート事業について情報提供を行った。

農業水産振興課では、今後も各種研修会を通じて女性農業者の活動を支援していく。



作り方を説明する高井講師



完成した作品とともに



Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】

～「紀州てまり」果実の試食検討会～

農業水産振興課では果樹試験場かき・もも研究所において育成された新品種甘柿「紀州てまり」（品種登録：平成31年4月23日）の穂を、橋本市（2カ所）、かつらぎ町（1カ所）、九度山町（2カ所）の5カ所の柿園において、「刀根早生」に高接ぎし、生育調査を行っている。

本品種の普及拡大を図るために10月30日に当振興局内において試食検討会を開催し、生産者、JA職員らの出席があった。

最初に、かき・もも研究所古田副主査研究員から栽培上の注意点や現地圃場における生育状況等について説明を受けた。その後、各高接ぎ圃場の「紀州てまり」と対照品種の「早生富有」、「太秋」、「秋王」、かき・もも研究所で育成した「ST17」の試食を行い、アンケート調査を実施した。

今後も「紀州てまり」の産地化を目指して、普及拡大を図っていく。



「紀州てまり」の栽培性に関する講演



果実の試食検討

2. 小学校で柿の渋抜き体験を実施

伊都地方農業振興協議会（市町、J A、農業共済、振興局で構成）は、地域農業への理解を深めるとともに、伊都地方特産の柿の美味しさを知ることにより地産地消の推進を図るため、平成13年度から小学生を対象に柿の体験学習を行っている。体験学習は今年で19年目となり、訪れた小学校はのべ395校（対象児童数：20,672人）になった。今年度は、管内、和歌山市、守口市の小学校合わせて20校1,007人に対して体験学習を行った。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、密になりやすい試食や作業に時間がかかる吊るし柿体験は実施せず、柿のお話とアルコールによる渋柿の渋抜き体験のみを行った。柿のお話では、和歌山県が日本一の柿産地であることや、柿農家の作業、加工・流通等について、クイズも交えながら説明し、児童らは楽しみながら学んでいた。また、渋抜き体験では渋柿のヘタを焼酎に浸けてから袋に入れ、密閉する方法で脱渋処理を行い、処理後7日程度で渋かった柿がおいしく甘い柿に変わることを説明した。

コロナ禍により、三密にならないように注意しながらの実施となったが、農業水産振興課では、このような時期だからこそ、家庭の食事で和歌山の特産品である柿に親しんでもらい、食育や消費拡大へ繋げていきたいと考えている。



柿のお話



渋柿の渋抜き体験

IV 有田振興局

1. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催！

有田市立糸我小学校（校長：川嶋哲生氏）では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。

10月2日、5年生による稲刈りが行われた。地元農家が支援し、「田んぼの学校」の校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）指導のもと、鎌を持って稲刈りを行った。

体験した児童は慣れない鎌を持ちながらの作業は難しいと言っていたが、上手に刈り取ることが出来た。

今後も、農業水産振興課では地域の農業者と共に、食育活動の支援を行っていく。



山崎氏による稲刈りの説明



稲刈り体験

V 日高振興局

1. みなべ町農業士会が耕作放棄地対策研修を実施

10月7日、みなべ町農業士会（会長：松川哲朗氏）の役員ら7名は、地域で増加する耕作放棄地対策の参考にするため、田辺市上秋津の「秋津野ガルテン」で研修を行った。

最初に、農業法人「秋津野」の玉井常貴会長から、地域づくり団体「秋津野塾」や直売所「きてら」体験型宿泊施設「秋津野ガルテン」等の紹介があり、続いてICTによるスマート農業を活用し、生産拡大や作業の省力・効率化等を図る農業法人「秋津野ゆい」の取り組みについて説明があった。

「秋津野ゆい」は昨年11月に設立され、耕作が困難な農地（現在約1.3ha）を借り受けて管理し、新たに農地を希望する新規就農者等に貸し出している。

また、次世代に農業をつなぐうえでスマート農業が重要となることから、リモコン式自走草刈り機や気象観測装置を導入し、適地適作の実践に取り組むということであった。

参加者からは、「とても参考になった」、「すぐに「秋津野ゆい」のような取り組みはできないが、まずは耕作放棄地になる前にスムーズに農地を引き継げる体制を作っていきたい」等の感想や意見があった。



耕作放棄地対策研修

2. 由良町内の子供たちに「ゆら早生」を贈呈

10月20日、由良町農業士会（会長：数見隆一郎氏）、ゆらっ子農業塾（塾長：中谷明博氏）が町内のこども園と小中学校4校に、町特産の「ゆら早生」を贈呈した。

この活動は、町発祥の極早生みかんである「ゆら早生」の特性や素晴らしさを町内の子供たちに知ってもらおうと毎年行われており、2年前から農業士会と農業塾が合同で実施している。

当日は、各会の役員4名が2班に分かれ、それぞれの学校を訪問した。由良町立衣奈小学校には同会の数見会長と同塾の中谷塾長が、由良小学校には同会の里地芳卓副会長と同塾の山口貴生副塾長が訪れ、児童会代表に「ゆら早生」を手渡した。

数見会長は、「ゆら早生は三尾川で発見されました。20年以上かけて作り、全国で知れ渡っています。ぜひ食べてみてください」と話した。受け取った児童会長は、「今年も美味しいゆら早生みかんを持ってきて頂き、ありがとうございます。甘くて美味しいので嬉しいです。一生懸命作ってくれたみかんを食べるのが楽しみです」と御礼の言葉を述べた。

農業水産振興課では、今後も農業士会活動を支援していく。



ゆら早生の贈呈（衣奈小学校）



ゆら早生の贈呈（由良小学校）

VI 西牟婁振興局

1. まずは体験！～スマート農業実践塾（果樹コース）を開催～

10月16日、県主催による標記講習会を田辺市秋津町のウメ園地で開催し、午前中はリモコン式草刈機とアシストスーツ、午後は農薬散布用ドローンのデモ飛行見学、空撮用ドローンの操作講習を行い19名の農業者と関係者が操作を体験した。

本実践塾は、スマート農業技術の現場導入を促進するために振興局単位で実施しており、今回は西牟婁・東牟婁振興局の合同開催であった。

当日の参加者へのアンケート結果では、「初めて操作してみて面白かった」、「思ったより操作が簡単」、「数種類の草刈り機を比べられて参考になった」など好印象な意見が多かった。

導入に関しては「もう少し価格が安くなれば」との意見が多かったが、中には「使ってみたい」との意見も聞かれた。全体を通じておおむね好評で、有意義だったとの意見が多かった。

農業水産振興課では、今後とも農業者にスマート農機への認識を深めてもらうため、展示会や実演会などの機会を積極的に提供していく。



リモコン式草刈機の操作講習



アシストスーツの装着体験



空撮用ドローンの操作講習

2. 若手農業者が相互に園地等の巡回研修を実施

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会(会長:小谷将之氏)は、生産技術や経営概要を共有し、各々の経営発展に活かすため、ブロックに分けて相互に園地等の巡回研修を実施した。クラブ員の多くはウメを主体に経営しているため、ウメ園地や梅干しの加工場を中心に研修した。

10月13日には、田辺市上芳養・秋津川ブロックの園地をクラブ員8名、農業水産振興課の前田普及指導員と橋本技師で巡回研修を行った。自家の経営概要や経営改善内容について各自が事前に資料を準備し、巡回時に規模拡大した園地を整備した際の苦労話や、今後の園地取得計画、農機具で工夫している点などについて説明を行った。参加者からは「園地取得のめどはついているのか」、「この電動せん定バサミは使いやすい」などの質問や感想が上がった。

10月28日には、上富田町岡・田辺市三栖ブロックの園地をクラブ員9名、当課の橋本技師で巡回研修を行った。シカの被害が多いウメ園地では、改植(補植)した若木を柵で囲うなどの対策をしているが、ウメを拾うためのネットが設置しづらくなってしまうため、何かいい方法がないかと、それぞれの地域における鳥獣害の状況やその対策について積極的に意見交換が行われた。

今後、今回の研修を通して各々が学んだことや自家の経営に取り入れてみたいことなどを意見交換していく予定で、当課では今後とも同協議会の自主的な活動を支援していく。



梅干し干場の見学



ウメ園地での獣害対策

3. ホオズキ生産者が新しい栽培法に挑戦！

西牟婁管内ではお盆にあわせて、直売所出荷向けにホオズキが栽培されている。ホオズキの栽培は、前作のほ場から掘りあげた地下茎を利用して作付けが行われているが、この方法では土壌病害やウイルス等をほ場に持ち込む危険性が高く、現地ほ場においても、株枯れや斑点細菌病などの病害が多く発生し、生産者からそれらの対策を要望されている。このため、農業水産振興課では他産地で実施されている実生苗から無病の地下茎を養成する栽培法を提案し、生産者及びJ A紀南担当者と共に地域に合った栽培法を検討している。

8月に農業試験場の協力を得て上富田町の生産者が収穫した実から採種し、滅菌処理を行った種子を9月3日に田辺市秋津川の生産者が播種、育苗した。この苗を10月8日に生産者と谷普及指導員、宮前普及指導員、J A紀南の中地営農指導員らで7.5cmポットに鉢上げを行った。鉢上げた苗は、地下茎をできるだけ大きくするため保温に努めることなどに注意して管理し、来年2月に植え付け可能な地下茎ができていないかを確認する。また、残った苗を管内の生産者4名に配布し、同様の管理をして、実生苗の地下茎利用が可能かを検討する。

この地下茎養成技術が確立すれば、病害の被害軽減の他、地下茎の掘り上げ作業の省力化、優良系統の選抜などの効果も期待できる。生産者からは「発芽が遅く苗ができるか心配したが、90%以上の苗を仕立てることができた。この方法は簡単なので、健全な地下茎を確保でき、病害の軽減につながることを期待している」との意見が出された。

当課では、今後ともホオズキの安定生産技術の確立に向け、生産者や関係機関と連携し、栽培管理や現地検討を継続していく。



鉢上げ作業



1ヵ月育苗したホオズキ実生苗



7.5cmポットに鉢上げたホオズキ実生苗

4. 令和元年度 川添緑茶研究会通常総会を開催

10月30日、川添緑茶研究会（会長：上村誠氏）の令和元年度通常総会が白浜町の川添山村地域活性化支援センターにおいて、会員及び関係者11名が出席して開催された。

総会では令和元年度活動報告並びに収支決算報告、令和2年度活動計画(案)並びに収支予算(案)が原案どおり承認された。

総会後の話題提供では、農業水産振興課の村畑普及指導員から山村資源の生産、加工等に活用できる県単独補助事業「山の恵み」活用事業の概要について紹介した。

当課では、今後とも川添緑茶研究会の活動を関係機関と連携しながら支援していく。



通常総会

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 古座川梅研究会がウメ剪定講習会を開催

10月20日、古座川梅研究会（会長：新屋常夫氏、会員5名）は、ウメ剪定技術の向上のため研究会会員のウメ園4カ所で剪定講習会を開催した。

はじめに、農業水産振興課上門普及指導員からウメの剪定の基本技術の説明を行い、その後、ウメの剪定講習を行った。各園地は、樹齢や栽培方法等が異なることから、状況に応じた剪定やそれぞれの園地に適した栽培方法の話し合いも交えながら行った。

また、農作業安全啓発チラシにより事故事例と事故防止のポイントについても説明を行い、農作業事故防止の啓発を行った。

当課では今後もウメの新技术や安定生産・高品質化を推進する。



主枝、亜主枝の配置を説明

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 令和2年度技術修得研修（第2班）開講

10月5日、9名の研修生を迎えて技術修得研修（第2班）を開講した。

研修生は、10月～2月の5ヶ月間（全25日間）、講義と実習を通じて、農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。

午前中は、開講式に引き続き、県内の果樹・野菜・花き産地の概況について講義を行った。午後は、中晩柑の樹上選別摘果およびイチジクの収穫・出荷調整実習を行った。

就農支援センターでは、研修生が本研修終了後にスムーズに就農できるよう、充実した研修メニューで支援していく。



開講式



中晩柑の樹上選別摘果実習

IX 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 「わかやまスマート農業実践塾(施設園芸コース)」第2回を開催

10月16日、スマート農業技術の現場導入を加速化するため、(株)デルフィージャパンの麻生英文氏を講師に迎え、先進的な環境制御技術を学ぶ「わかやまスマート農業実践塾」第2回（全5回）を開催し、施設園芸農家25名が受講した。

今回からは、現地での実践的な技術指導がスタートし、午前中は、印南町内でミニトマトを栽培している西川慎太郎氏（塾生）のハウスで、秋から冬にかけてのハウス管理について説明があった。参加者からは、「環境測定センサーの設置位置など具体的な技術が学習でき良かった」という声があった。

午後は、暖地園芸センター研修館で、生育調査、二酸化炭素施用方法について講義があった。生育調査については、調査方法と必要性について説明があり、生育調査と環境データを数値化することで、より正確な状況が把握でき、データに基づいた総合的な栽培管理が可能となるとの説明があった。

次に効率的な二酸化炭素の施用方法やハウス換気について例題を示しながら丁寧な説明があった。参加者からは、換気方法や炭酸ガス施用時期、濃度等について多数質問があがっていた。

次回は、11月20日に紀の川市内のハウスで現地研修と農業試験場で湿度管理について講義予定である。

経営支援課では、本塾を通じて引き続きスマート農業の導入を支援していく。



講師：株式会社デルフィージャパン 麻生 英文 シニアコンサルタント

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489